

ブラジルの金融市場動向 Weekly Report

2019年5月7日

【2019年4月20日～2019年5月3日までの推移】

【1】4月20日～5月3日までの回顧

ブラジル・レアルは、対円、対米ドルともに下落しました。また、2年国債金利は概ね横ばいで推移しました。年金改革法案の審議が当初想定されていたスピードで進展していないことや米国の利下げ期待が後退したことで新興国通貨全般が売られたことなどから、ブラジル・レアルは売られました。

4月23日（現地、以下同様）に行われた下院憲法司法委員会の票決では、法案は事前の予想通り賛成多数で通過しましたが、当初の想定よりも大幅に時間を要したことから、市場では最終的な年金改革法案承認の後ずれが意識されました。また、次の段階である下院特別委員会にて、中道政党が歳出削減規模の縮小を意図した年金改革法案の修正を予定していると報じられたことも、ブラジル・レアルの重石となりました。

経済指標に関しては、3月の鉱工業生産や4月の製造業PMI（購買担当者指数）、IPCA-15インフレ率などが発表されました。3月の鉱工業生産は前月・前年比ともに市場予想を上回る低下となり、4月の製造業PMIも低下しました。また、ブラジル中央銀行が発表した経済動向調査では2019年の予想GDP（国内総生産）成長率は10週連続で引き下げられ、1.49%へ修正されました。一方、4月のIPCA-15インフレ率は市場予想を上回る上昇となりました。

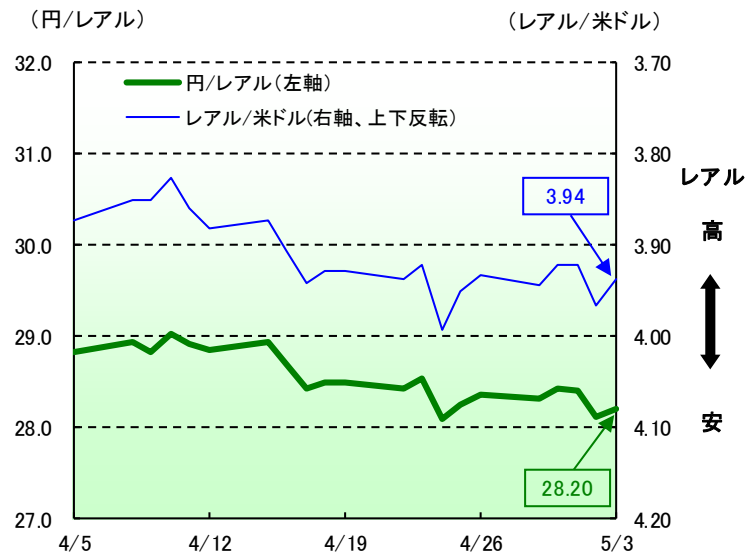
【2】今週の見通し

今週は、IPCAインフレ率やサービス業PMI、小売売上高などの経済指標の発表が予定されています。また、ブラジル中央銀行からは政策金利の発表が予定されていますが、こちらは据え置きが予想されています。

年金改革法案に関しては、今後は5月7日より行われる予定の、下院特別委員会での審議に注目が集まりそうです。法案が憲法改正を伴うものかを審議する下院憲法司法委員会に対して、下院特別委員会では法案の詳細について議論・調整が行われるため、法案の具体的な変更点、歳出削減規模、承認スケジュールに特に注目が集まると考えます。

【ブラジル・レアル 為替推移】

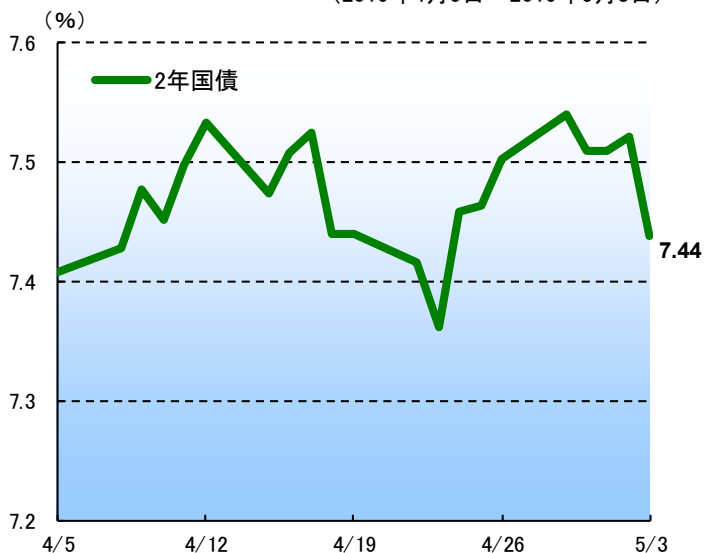
（2019年4月5日～2019年5月3日）



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【ブラジル 金利推移】

（2019年4月5日～2019年5月3日）



（出所：ブルームバーグより大和投資信託作成）

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。
- 当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <https://www.daiwa-am.co.jp/>